

日向

栗山政子

拾ひたる昼の木の実に夜が来る
 流るるは白雲か吾か水の秋
 たつぷりと日向を歩き櫛紅葉
 黄落を浴ぶ活字より目を離し
 桔梗の蕾を裂いて去る生徒
 ともしびの途切れ金木犀強気
 メモ書きが本より落ちて帰り花
 郵便受けに十一月の薄日
 馬鹿みたいと登校のこゑ冬霞
 白日の杜の落葉のかぐはしく